

第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展
日本館の提案
田中功起／蔵屋美香

1. 震災のさまざまな側面に直接的、間接的に言及するいくつかの「練習問題 (exercise)」を設定する
2. これらの「練習問題」を複数の人々から成るグループに与え、協働作業による取り組みの過程を、15本から20本程度の映像作品に仕上げる
3. これらの映像を、指定された素材(アルミシート、毛布、木材)のみを用いて建築関係者のグループがデザインした個々の作品用のブースに展示し、会場を構成する





■ 参考作品

Everything is Everything, 2006

「モノが自立した世界」から「モノへの人の働きかけ」へ



Relocate the Public Library in Taipei
by borrowing one love story book at
a time. Leave the book in the
Taipei Fine Arts Museum

2009

台北市立美術館

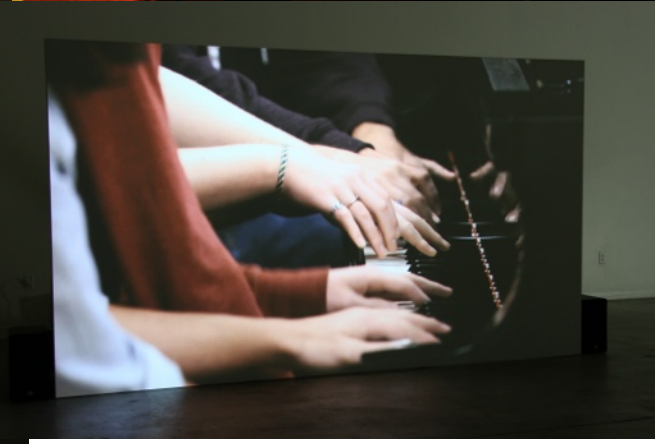


モノを介した人と人の関わりへ—
モノを扱う人々のふるまいの中で
ルールが生まれ、
ルールに従った行動が
与えられた空間を造形する



a haircut by 9 hairdressers at once (second attempt), 2010
Yerba Buena Center for the Arts

9人の美容師が一人の女性の髪を共同でカットする—
ルール作りと造形の分業・統合



A Piano Played by Five Pianists at Once (First Attempt), 2012
ルーム・ギャラリー、カリフォルニア大学アーヴァイン校

5人のピアニストが「Collective Engagement」をテーマに1台のピアノで作曲を行う—
ルール作りと分業・統合 ピアノという空間の分節化 フォーメーション



■「練習問題」のイメージ ルールの生成による空間の造形

節電：駅のエスカレーターと階段



信号の停電: 新しいルールを生み出しながら十字路で各自が複雑に行動する



計画停電：浮かび上がる扇形と逆S字



益子参考館他、益子の被害状況
壊れた登り窯と破棄された陶器